

将来人口推計調査結果概要

調査概要

●調査の目的
立川市第5次長期総合計画を策定するにあたり、立川市の人口などの今後の動向および人口の特徴を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

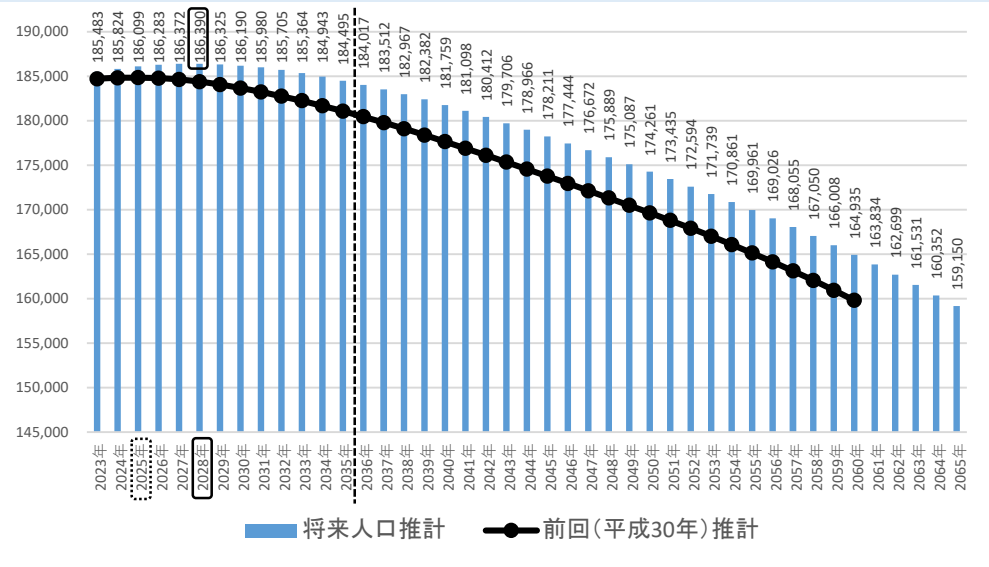
●推計期間
令和6（2024）年～令和47（2065）年の42年間

●推計範囲
立川市全域、第3次生活圏および町別

●推計方法
コーホート要因法により推計を行った。コーホート要因法とは、ある年の年齢別人口（コーホート）が経年によって生じる年々の変化を人口動態（出生や死亡）や移動率などの要因ごとに計算して、将来人口を推計する手法である。

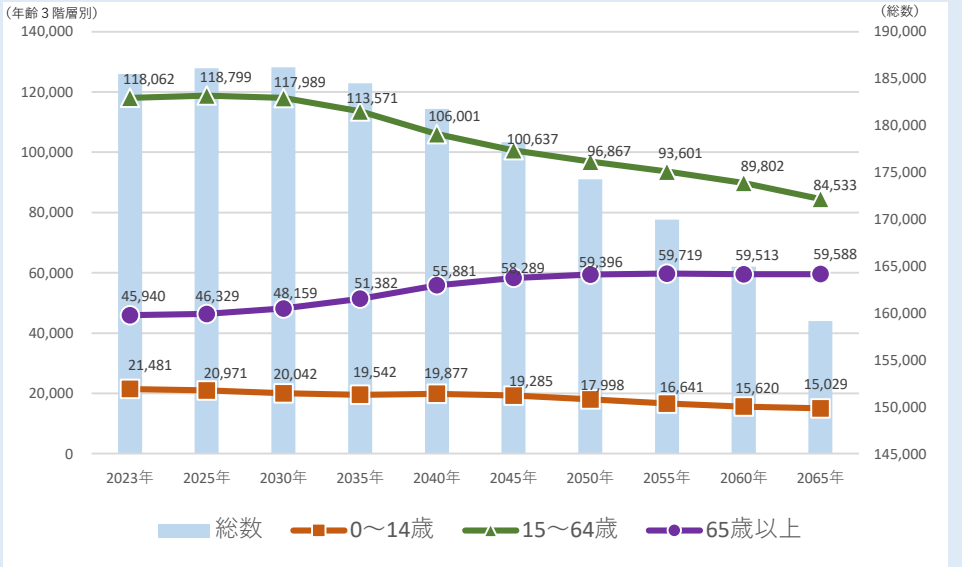
【1】総人口の将来見通し 令和5(2023年)～令和47(2065)年

前回(平成30年)推計では、総人口が令和7(2025)年に184,839人でピークを迎えるという予測であったが、今回の推計では、令和10(2028)年に186,390人でピークを迎える推計となった。総人口は、その後減少を続け、令和47(2065)年には、令和5(2023)年と比べて26,333人、14.2%の減少となる。



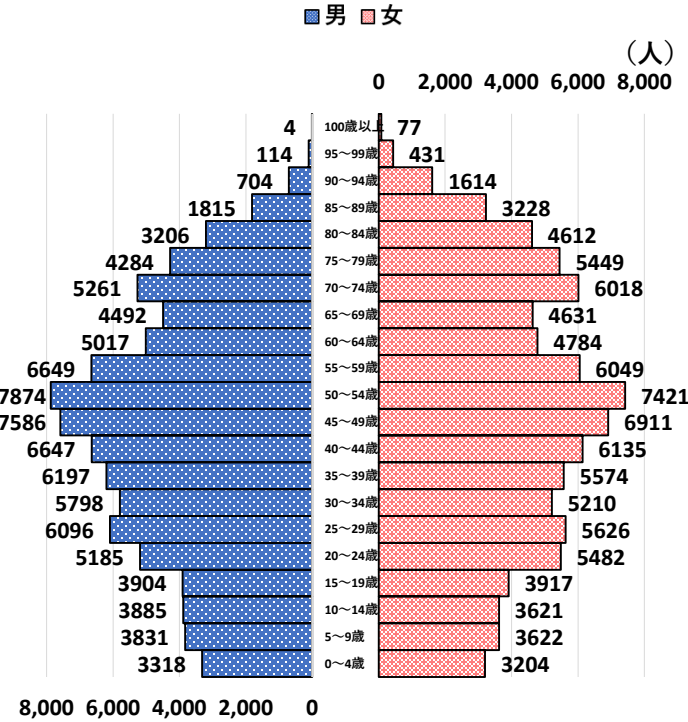
【2】年齢3階層別人口の将来見通し

令和47(2065)年には、令和5(2023)年と比較して、0～14歳人口が6,452人(30.0%)、15～64歳人口が33,529人(28.4%)減少する。一方で、65歳以上人口は13,648人(29.7%)の増加となる。65歳以上の人口構成比は令和5(2023)年の24.8%から大幅に増加し、37.4%になると予測される。

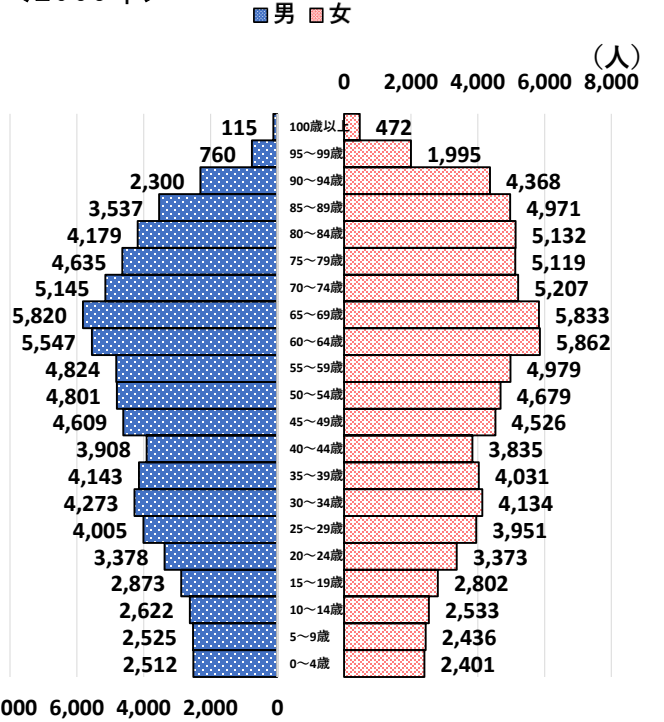


【3】男女別人口の将来見通し

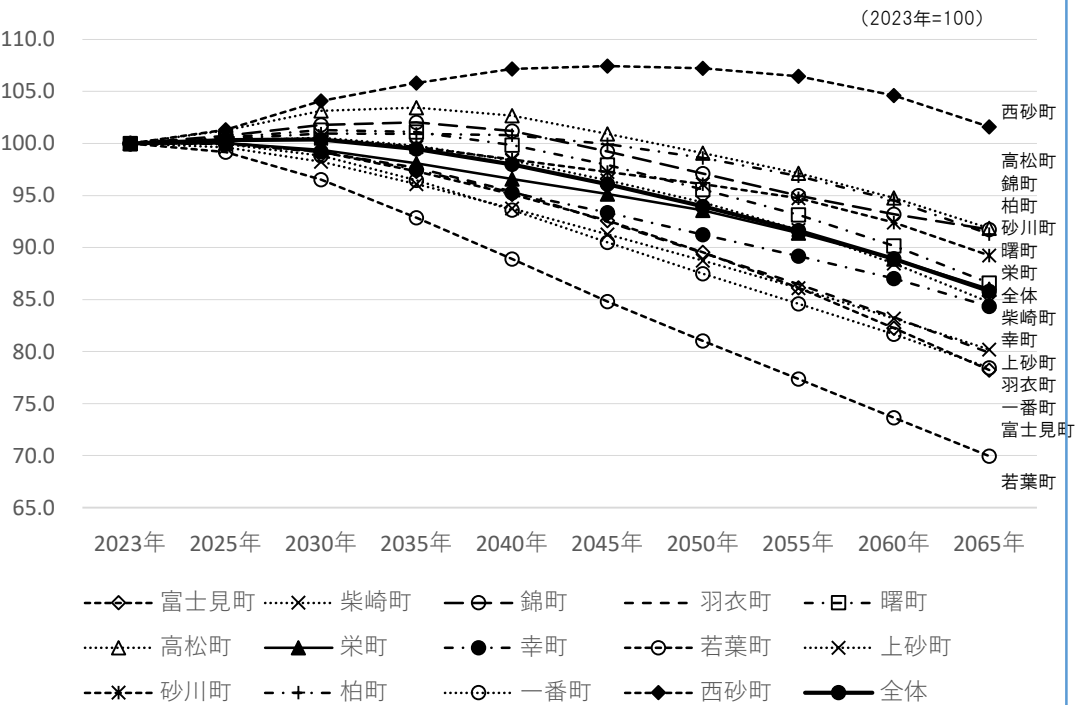
<2023年>



<2065年>



【4】町別人口の将来見通し 令和5(2023年)～令和47(2065)年



※緑町および泉町は、人口が少ないうえに官舎が多く、特殊な推移となるためグラフから除いています。